Forte for Java, Community Edition
インストールガイド

Forte for Java, Release 3.0

Sun Microsystems, Inc.
901 San Antonio Road
Palo Alto, CA 94303-4900 U.S.A.
650-960-1300

Part No. 816-2851-01
2001 年 10 月 Revision A

Send comments about this document to: docfeedback@sun.com

Copyright © 2001 Sun Microsystems, Inc., 901 San Antonio Road, Palo Alto, California 94303, U.S.A. All rights reserved.

本製品に採用されているテクノロジに関する知的財産権は Sun Microsystems, Inc. が保有しています。特に、これらの知的財産権には、ウェブサイト http://www.sun.com/patents にリスト表示されている米国特許、または米国および他の国へ出願中の特許が含まれている可能性があります。

本製品は、本製品やドキュメントの使用、コピー、配布、および逆コンパイルを規制するライセンス規定に従って配布されます。本製品のいかなる部分も、その形態および方法を問わず、Sun およびそのライセンサーの事前の書面による許可なく複製することを禁じます。

フォントテクノロジを含むサードパーティ製のソフトウェアの著作権およびライセンスは、Sun のサプライヤが保有しています。PointBase ソフトウェアは社内開発での使用のみを目的としており、商用で使用する場合には別途 PointBase からライセンスを取得する必要があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Forte、Java、Jini、Jiro、Solaris、iPlanet、および NetBase は、米国および他の各国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

SPARC は SPARC International, Inc. の米国および他の各国における商標または登録商標であり、同社とのライセンス契約のもとで使用されています。SPARC の商標を使用した製品は Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャに基づいています。

連邦政府による取得： 市販ソフトウェア -- 米国政府機関による使用は、標準のライセンス条項に従うものとします。

原典： *Forte for Java, Community Edition, Getting Started Guide*
Part No: 816-2050-10
Revision A

© 2001 by Sun Microsystems, Inc.

目次

はじめに　v

1. Forte for Java IDE のインストールについて　1

必要な手順の概要　1

システム条件　2

Early Access リリースからのアップグレード　3

旧バージョンからのアップグレード　3

共有インストールの作成　4

Web サーバーの選択とインストール　5

IDE で使用する iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 のインストール　6

Forte for Java IDE のインストール　6

Microsoft Windows システムへのインストール　6

Solaris™ 8 オペレーティング環境でのインストール　8

Red Hat Linux 6.2 でのインストール　10

Web サーバーと IDE の統合　11

IDE と iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 の統合　11

Forte for Java IDE でのデータベースの使用　13

IDE での PointBase データベースの使用　13

IDE でのその他の JDBC データベースの使用　14

Forte for Java デベロッパーリソースへの登録　15
インストールサブディレクトリの検索　16
アップデートセンターによるモジュールの更新　17
Forte for Java IDE (全プラットフォーム) のアンインストール　18

2. 起動コマンド行のスイッチの使用　19

3. IDE 内の Java マニュアルへのアクセス　23

「Javadoc」タブからのマニュアルへのアクセス　23

はじめに

このマニュアルは、Forte™ for Java™, Community Edition 統合開発環境 (IDE) のインストール手順について説明します。具体的な内容は以下のとおりです。

- 必要な手順の概要
- システム条件
- 旧バージョンの IDE からのアップグレード
- IDE で使用する Web サーバーの選択、インストール、および統合
- IDE と統合するデータベースの設定
- Forte for Java デベロッパーリソースへの登録
- IDE の最上位ディレクトリの内容
- アップデートセンターによるモジュールの更新
- IDE のアンインストール
- 起動コマンド行スイッチの使い方
- Javadoc マニュアルへのアクセス

内容の紹介

第 1 章では、システム条件と、Forte for Java, Community Edition のインストールに関する情報を提供します。Web サーバーやアプリケーションサーバーの選択とインストール、旧バージョンからのアップグレード、製品のアンインストールなどの情報が記載されています。

第 2 章では、IDE のインストールをカスタマイズするために起動スクリプトで使用できるオプションのリストを提供します。

第 3 章では、Java™ 2 SDK マニュアルをダウンロードする方法と、IDE から Javadoc™ マニュアルにアクセスする方法を説明します。

表記上の規則

表 P-1　表記上の規則

字体または記号	意味	例
`AaBbCc123`	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	`.login` ファイルを編集します。 `ls -a` を使用してすべてのファイルを表示します。 `system%`
`AaBbCc123`	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	`system%` **`su`** `Password:`
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには `rm` *filename* と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	`sun%` **`grep '^#define \`** **`XV_VERSION_STRING'`**

関連マニュアル

Forte for Java, release 3.0, Community Edition に関連するマニュアルの詳細については、`http://www.sun.co.jp/forte/ffj/documentation/` をご覧ください。Forte for Java, release 3.0 のマニュアルの表には、以下のマニュアルへのリンクがあります。

- 『Forte for Java リリースノート』
- 『Forte for Java, Community Edition チュートリアル』
- 『J2EE モジュールおよびアプリケーションのアセンブルと実行』
- 『持続プログラミング』
- 『Web コンポーネントのプログラミング』

このほか、Forte for Java, release 3.0, Enterprise Edition に関連する以下のマニュアルへのリンクもあります。

- 『Forte for Java, Enterprise Edition チュートリアル』
- 『XML データサービス用 JSP のプログラミング』
- 『Web サービスのプログラミング』
- 『Enterprise JavaBeans コンポーネントのプログラミング』

Sun オンラインマニュアルへのアクセス

docs.sun.com では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。

`http://docs.sun.com`

Sun のマニュアルの注文

インターネット上の専門書店 Fatbrain.com では、Sun Microsystems, Inc. の製品マニュアルを販売しています。

マニュアルのリストと注文方法については、Fatbrain.com の Sun Documentation Center にアクセスしてください。

http://www.fatbrain.com/documentation/sun

ご意見の送付先

米国 Sun Microsystems, Inc. では、マニュアルの向上に力を注いでおり、ユーザーのご意見やご提案をお待ちしております。ご意見などがありましたら、次のアドレスまで電子メールをお送りください。

docfeedback@sun.com

電子メールのタイトルに、対象マニュアルのパーツ番号（このマニュアルの場合は 816-2851-01）を明記してください。

第1章

Forte for Java IDE のインストールについて

この章では、Forte for Java, Community Edition のインストールとセットアップについて説明します。Web サーバーのインストール、旧バージョンからのアップグレード、製品のアンインストールなどが含まれます。

必要な手順の概要

ここでは、Forte for Java, Community Edition のインストールに必要な手順を簡単に説明します。

1. Java™ 2 SDK, Standard Edition, v. 1.3.1 をシステムにインストールします。
2. Web アプリケーションをインストールする Web サーバーを選択します。
3. IDE で使用する Web サーバーソフトウェアを入手してインストールします。
4. Forte for Java, Community Edition をインストールします。
   a. IDE の Early Access (EA) 版からアップグレードする場合、EA 版のアンインストーラを実行して IDE の EA 版を削除した後、Forte for Java ユーザーディレクトリを手動で削除します。
   b. 旧バージョンの IDE (EA 版以外のもの) からアップグレードする場合は、リリース 3.0 インストールプログラムからメッセージが表示される際に、旧バージョンを削除するかそのまま残しておくかを選択します。
5. Web サーバーと IDE を統合します。
6. 必要に応じて、IDE で使用するデータベースを設定します。
7. Forte for Java デベロッパーリソースに登録します。

システム条件

Java 2 SDK, Standard Edition, v. 1.3.1 をシステムにインストールし、Forte for Java IDE をインストールおよび実行します。詳しい情報とダウンロードリンクについては、`http://java.sun.com/j2se/1.3/` をご覧ください。

表 1 は、サポートされているプラットフォームに Forte for Java IDE をインストールするために必要なシステム条件を示しています。

表 1-1　Forte for Java, release 3.0, Community Edition のシステム条件

プラットフォーム	Solaris™ 8 オペレーティング環境	Windows NT 4 SP6 Windows 2000 SP2、 Windows 98	Red Hat Linux 6.2
インストールに必要なハードディスク容量	110M バイト	110M バイト	110M バイト
最小構成	Ultra™ 10、128M バイトの RAM、256M バイトのスワップ空間	350 MHz Pentium II、128M バイトの RAM、128M バイトのページングファイルサイズ	350 MHz Pentium II、128M バイトの RAM、128M バイトのスワップ空間
推奨構成	Ultra™ 60、360-MHz UltraSPARC-II 512M バイトの RAM、512M バイトのスワップ空間、または SunBlade™ 100、500 MHz Ultra-SPARC™ IIe プロセッサ、512M バイトの RAM、512M バイトのスワップ空間	450 MHz Pentium III、256M バイトの RAM、256M バイトのページングファイルサイズ	450 MHz Pentium III、512M バイトの RAM、256M バイトのスワップ空間

これらの条件は、一般的な目安に過ぎません。実際の条件は、Forte for Java IDE に追加されるソフトウェアによって異なります。

Early Access リリースからのアップグレード

旧バージョンが Early Access リリース (Forte for Java, Community Edition EA) である場合、アップデートセンターを利用してバージョン 3.0 に更新することができません。バージョン 3.0 をインストールする前に、次の作業を行います。

1. Early Access アンインストーラを実行して、EA 版の Forte for Java IDE を削除します。
2. 旧バージョンの Forte for Java IDE で作成された Forte for Java ユーザーディレクトリ (UNIX® 環境の *user-home-dir*/`ffjuser30` ディレクトリ) を手動で削除します。

   EA のアンインストーラは、このディレクトリから全ファイルを削除しません。旧ユーザーディレクトリを削除することにより、Early Access リリースで作成されたすべての設定が削除されます。これで、リリース 3.0 をインストールできます (Early Access リリースとリリース 3.0 の設定形式の違いにより、例外が発生する場合もあります)。

旧バージョンからのアップグレード

リリース 3.0 にアップグレードする上で、旧バージョンの IDE を削除することも、旧バージョンの IDE を残したまま、新しいインストールディレクトリにリリース 3.0 をインストールすることもできます。

旧バージョン (Early Access リリース以外) からアップグレードを行い、旧バージョンの IDE を削除する場合、次の手順で、旧 IDE のユーザー設定を継承することができます。

1. Forte for Java, release 3.0 インストーラを実行します。
2. ダイアログが表示されたら、旧バージョンを削除します。
3. 新バージョンの IDE をインストールするディレクトリとして、旧バージョンのインストールディレクトリを指定します。

4. 新しい IDE を起動します。

   「設定インポート」ウィザードにより、旧バージョンのユーザー設定が自動的にインポートされます。

   旧バージョンの IDE を残し、リリース 3.0 で同じ IDE ユーザー設定を使用する場合の手順は、次の通りです。

1. Forte for Java, release 3.0 インストーラを実行します。
2. 旧バージョンを削除するかどうかを尋ねるダイアログが表示されたら、「いいえ」をクリックします。
3. 新バージョンの IDE をインストールするディレクトリとして、新しいディレクトリを指定します。
4. 新しい IDE を起動します。

   「設定インポート」ウィザードが起動します。

5. 旧バージョンの IDE の位置を尋ねるダイアログが表示されたら、旧バージョンのインストールディレクトリを指定します。

   「設定インポート」ウィザードにより、旧バージョンのユーザー設定がインポートされます。

   旧バージョンの IDE から設定をインポートする詳細については、『Forte for Java リリースノート』(`http://www.sun.co.jp/forte/ffj/documentation/index.html`) を参照してください。

共有インストールの作成

複数のユーザー間で Forte for Java のインストールを共有する場合、共有ディレクトリに Forte for Java IDE をインストールする必要があります。

UNIX® をインストールしていれば、共有ディレクトリへの書き込み権を設定する必要はありません。すべてのユーザー設定は、各ユーザーのホームディレクトリの下に作成される `ffjuser30` ディレクトリに格納されます。これは、共有インストールでも非共有インストールでも同様です。

Microsoft Windows システムに IDE をインストールした場合、自分のマシンから IDE を初めて起動した直後に表示されるダイアログボックスを使用して、自分のユーザーディレクトリを設定する必要があります。これは、共有インストールでも非共有インストールでも同様です。

Web サーバーの選択とインストール

Forte for Java, Community Edition の配備機能を使用するには、Community Edition とそれを配備する Web サーバーが必要です。組み込み式の Tomcat Web Server を使用することもできますし、iPlanet™ Web Server, Enterprise Edition 6.0 をダウンロードすることもできます。iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 は、`http://www.sun.co.jp/forte/ffj/buy.html` のダウンロードリンクか Forte for Java CD から入手できます。

まず、Web サーバーをインストールします (特に、iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 を使用する場合)。

Forte for Java IDE を使用して、サーブレットと JavaServer Page™ (JSP™) テクノロジで構成される Web アプリケーションを開発する場合、次の Web サーバーを使用できます。

- iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0。このサーバーは、Forte for Java CD から入手できます。`http://www.sun.co.jp/forte/ffj/buy.html` にある Forte for Java, Release 3.0, Community Edition ダウンロードリンクをクリックしてダウンロードすることもできます。サーバーのインストール方法については、6 ページの「IDE で使用する iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 のインストール」を参照してください。
- Tomcat Web Server, v. 3.2。Forte for Java IDE に含まれている組み込みバージョンの Tomcat を使用できます。Tomcat についての詳細は、`http://jakarta.apache.org/tomcat/index.html` をご覧ください。

IDE で使用する iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 のインストール

IDE に含まれている iPlanet Web Server プラグインモジュールを使用する場合、iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 を最初にインストールする必要があります。

IDE をインストールする前に iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 をインストールしていない場合、iPlanet Web Server プラグインモジュールを無効にしてから、iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 のインストールを開始します。モジュールを無効にする方法については、12 ページの「iPlanet Web Server プラグインモジュールの無効化」を参照してください。

インストールガイドの指示に従って iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 をインストールします。インストールガイドは、Forte for Java CD または `http://docs.iplanet.com/docs/manuals/enterprise.html` から入手できます。

iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 のインストールが完了したら、IDE にサーバーの位置を通知して統合する必要があります。11 ページの「IDE と iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 の統合」中の手順に従って、iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 と IDE を統合し、正しく動作することを確認します。

Forte for Java IDE のインストール

ここでは、サポートされている各プラットフォームのインストール手順について説明します。

Microsoft Windows システムへのインストール

Microsoft Windows に Forte for Java IDE をインストールするには、`.exe` ファイルを使用します。

注 - Forte for Java IDE をインストールする前に、Java 2 Platform, Standard Edition, v. 1.3.1 (Java 2 SDK, v. 1.3.1) をインストールしておく必要があります。

注 - Web サーバーをインストールする場合、Forte for Java IDE より先にインストールする必要があります。Web サーバーのインストール方法については、5 ページの「Web サーバーの選択とインストール」を参照してください。

---

1. `ffj30_ce_ml.exe` ファイルをダブルクリックします。

   InstallShield の開始画面が表示されます。

2. 開始画面で「次へ」をクリックします。

3. ライセンス条項をよく読み、同意するには「はい」をクリックします。

   インストールを継続するには、ライセンス条項に同意する必要があります。

4. シリアル番号を入力し、「次へ」をクリックします。

   Forte for Java IDE をオンラインで購入した場合、ダウンロードページからシリアル番号が入手できます。ソフトウェアパッケージを購入した場合は、シリアル番号は同梱されているカードに記載されています。

   試用版ユーザーの場合：シリアル番号を入力せずに「次へ」をクリックすると、60 日間の試用版シリアル番号が自動的に生成されます。シリアル番号が表示されたら、「次へ」を再度クリックしてインストールを継続します。

   InstallShield は、互換性のある Java 仮想マシン (Java 2 SDK, v. 1.3.1) をシステム上に配置しようとします。

5. InstallShield により選択された JVM™ を受け入れるか、「参照」をクリックして別の JVM を選択します。JVM の選択後、「次へ」をクリックして作業を継続します。

6. 「インストールするコンポーネントの選択」ダイアログボックスで、インストールするコンポーネントを選択します。デフォルトのディレクトリを受け入れるか、「参照」をクリックして、自分の選択したディレクトリに IDE をインストールします。「次へ」をクリックして次に進みます。

注 - インストールディレクトリ名にスペースを含めることはできません。

ディスク容量の不足からインストールを完了できないことを通知するエラーメッセージが表示された場合、インストールファイルの抽出に必要なスペースがシステム (通常はドライブ `C:\`) にないと考えられます。この場合、一部のファイルを一時的にドライブ `C:\` から移動し、インストールを継続した後、ファイルをドライブ `C:\` に戻すことができます。

7. 関連チェックボックスをオンにすると、`.java` ファイルおよび `.nbm` ファイル (NetBeans™ モジュールファイル) を Forte for Java IDE に関連付けることができます。「次へ」をクリックして次に進みます。

   これらのファイルを IDE に関連付けておけば、IDE の実行時にダブルクリックすることで、IDE 内部から開くことができます。

8. 「インストール設定確認」ダイアログボックスで選択項目を確定し、「次へ」をクリックします。

9. 「完了」をクリックして、インストールを完了します。

   インストール完了後、
   `http://www.sun.co.jp/forte/ffj/documentation/index.html` で『Forte for Java リリースノート』を参照し、リリースに関する最新情報をチェックしてください。

10. Forte for Java IDE を起動するには、Forte for Java CE の下の開始メニュー項目をクリックするか、コマンド行から *ffj-install-dir*`\bin\runidew.exe` を実行します。

Solaris™ 8 オペレーティング環境でのインストール

Java クラスファイルを使用して、Solaris 8 オペレーティング環境に Forte for Java をインストールできます。

注 - Forte for Java IDE をインストールする前に、システムに Java 2 Platform, Standard Edition, v. 1.3.1 (Java 2 SDK, v. 1.3.1) をインストールしておく必要があります。

注 - Web サーバーをインストールする場合、Forte for Java IDE より先にインストールする必要があります。Web サーバーのインストール方法については、5 ページの「Web サーバーの選択とインストール」 を参照してください。

---

1. `ffj30_ce_ml.class` ファイルを保存したディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します (ファイルの拡張子は省略します)。

```
$ java -cp . ffj30_ce_ml
```

注 - ここでは、互換性のある Java 仮想マシン (Java 2 SDK, v. 1.3.1) がパスに含まれていると仮定しています。含まれていない場合は、Java インタプリタ実行可能ファイルへの完全パスを指定する必要があります。例：`# /usr/bin/java -cp . ffj30_ce_ml`

---

2. InstallShield の開始画面で「次へ」をクリックします。

3. ライセンス条項をよく読み、「次へ」をクリックします。

   インストールを継続するには、ライセンス条項に同意する必要があります。

   InstallShield は、互換性のある Java 仮想マシン (Java 2 SDK, v. 1.3.1) をシステム上に配置しようとします。

4. 選択されている JVM™ を受け入れるか、「ブラウズ」をクリックして別の JVM を選択します。「次へ」をクリックして次に進みます。

5. 「宛先フォルダ」ダイアログボックスから、Forte for Java IDE をインストールするディレクトリを選択します。デフォルトのディレクトリを受け入れるか、「ブラウズ」をクリックして、自分の選択したディレクトリに Forte for Java IDE をインストールします。「次へ」をクリックして次に進みます。

注 - インストールディレクトリ名にスペースを含めることはできません。

---

6. 「コンポーネントの選択」ダイアログボックスで、インストールするコンポーネントを選択します。「次へ」をクリックします。

7. 「インストール開始」をクリックして、「インストール準備完了」ダイアログボックスに表示された選択項目を確定します。

8. インストールが完了したら、「インストールの一覧」ウィンドウの内容を確認します。「終了」をクリックして、インストールを完了します。

   インストール完了後、`http://www.sun.co.jp/forte/ffj/documentation/index.html` で『Forte for Java リリースノート』を参照し、リリースに関する最新情報を確認してください。

9. Forte for Java IDE を起動するには、*ffj-install-dir*`/bin` ディレクトリにある `runide.sh` 起動スクリプトを実行します。

Red Hat Linux 6.2 でのインストール

RPM ファイルを使用して、Red Hat Linux 6.2 に Forte for Java をインストールできます。

注 - Forte for Java IDE をインストールする前に、Java 2 Platform, Standard Edition, v. 1.3.1 (Java 2 SDK, v. 1.3.1) をインストールしておく必要があります。

注 - Web サーバーをインストールする場合、Forte for Java IDE より先にインストールする必要があります。Web サーバーのインストール方法については、5 ページの「Web サーバーの選択とインストール」 を参照してください。

---

1. Java ホームディレクトリに対し、`JAVA_PATH` 変数を設定します。
2. 自分自身をスーパーユーザーに設定します。

```
$ su
```

3. プロンプトに次のように入力します。

```
$ rpm -i ffj_ce_30_ml.noarch.rpm
```

4. Forte for Java IDE を起動するには、*ffj-install-dir*`/bin` ディレクトリにある `runide.sh` 起動スクリプトを実行します。

Web サーバーと IDE の統合

インストールした Web サーバーと IDE は、統合する必要があります。

iPlanet Web Server または Tomcat Web Server 上でのアプリケーションの配備とテストに関する情報は、以下の Web ページの『J2EE モジュールおよびアプリケーションのアセンブルと実行』を参照してください。
`http://www.sun.co.jp/forte/ffj/documentation/index.html`

IDE と iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 の統合

iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 と IDE を統合するには、次の手順を実行します。

1. (Solaris オペレーティング環境のみ) 各 `jvm12.conf` ファイル内の `jvm.options=-Xrs` の行をコメントにします。

   このファイルは、次のディレクトリに置かれています。

   [*iws_install_dir*]/`https-`[*hostname*]/`config`

   [*iws_install_dir*]/`https-`[*hostname*]/`conf_bk`

2. IDE を起動し、表示されたダイアログボックスで iPlanet Web Server の位置を確認します。

   このダイアログボックスは、iPlanet Web Server プラグインモジュールが有効の場合にのみ表示されます。モジュールを有効にするには、次の手順に従います。

   a. IDE のメインウィンドウから「ツール」>「オプション」を選択します。

   b. 「オプション」ウィンドウから、「モジュール」ノードと「Web」ノードを拡張します。「iPlanet Web Server 6」をクリックします。「有効」プロパティを「True」に設定します。

3. IDE のメインウィンドウから、エクスプローラの「実行時」タブをクリックし、「サーバーレジストリ」のノードを拡張します。その後、「インストールされているサーバー」ノードを拡張します。

4. 新たに追加されたサーバーインスタンスを起動するには、「iPlanet Web Server 6.0」ノードを拡張します。サーバーインスタンスをマウスの右ボタンでクリックし、コンテキストメニューを開きます。起動オプションを選択し、サーバーインスタンスを起動します。

5. 適切な *hostname*:*portnumber* を入力し、ブラウザウィンドウでサーバーの状態を確認します。

   hostname:*portnumber* は、IDE のエクスプローラウィンドウの「実行時」タブで確認できます。「サーバーレジストリ」>「インストールされているサーバー」>「iPlanet Web Server Community Edition 6.0」>「https-*machine_name(port-number)*」を選択します。https-*machine_name*(*port-number*) の値は、*hostname*:*portnumber* の値に対応します。

   サーバーが無事にインストールされて IDE と統合された場合、ブラウザウィンドウに iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 ページが表示されます。

iPlanet Web Server プラグインモジュールの無効化

IDE をインストールする前に iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 をインストールしていない場合、iPlanet Web Server プラグインモジュールを無効にしてから、iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 の統合を開始します。

iPlanet Web Server プラグインモジュールを無効にするには、次の手順を実行します。

1. IDE のメインウィンドウから、iPlanet Web Server 6.0 のインストールディレクトリの入力が求められたら、「取消し」をクリックします。

2. メインウィンドウで、「ツール」>「オプション」をクリックします。

3. 「オプション」ウィンドウから、「モジュール」ノードと「Web」ノードを拡張します。「iPlanet Web Server 6」をクリックします。「有効」プロパティを「False」に設定します。

   モジュールを無効にしない場合、IDE を起動するたびに iPlanet Web Server のインストールディレクトリの入力が要求されます。

Forte for Java IDE でのデータベースの使用

Forte for Java IDE には、PointBase データベースが含まれています。IDE で他のデータベースを使用するには、それらのデータベース用に JDBC™ 対応のデータベースドライバを構成します。

IDE での PointBase データベースの使用

PointBase Network Edition 3.5 データベースは、Forte for Java IDE に含まれているデフォルトのデータベースです。このデータベースの使用方法とデータベーステーブルについては、*ffj-install-dir*/`pointbase/network/docs` または *ffj-install-dir*/`pointbase/client/docs` にある PointBase `docs` ディレクトリを参照してください。JDBC ドライバ情報セクションで PointBase ネットワークサーバーのトピックを検索してください。

IDE で開発したアプリケーションから PointBase データベースにアクセスする場合でも、PointBase で独自のテーブルまたはデータベースを作成する場合でも、PointBase を使用する前に PointBase データベースサーバーを起動する必要があります。

PointBase サーバーを起動するには、IDE のメインウィンドウから「ツール」>「PointBase Network Server」>「サーバーを起動」を選択します。PointBase サーバーを停止するには、メインウィンドウから「ツール」>「PointBase Network Server」>「サーバーを停止」を選択します。この操作で停止できるのは、「ツール」>「PointBase Network Server」>「サーバーを起動」で起動された PointBase サーバーだけです。

また、Microsoft Windows システムで PointBase サーバーを起動するには、「スタート」メニューから、「Forte for Java EE」>「PointBase」>「Network Server」>「Server」を選択します。サーバーを停止するには、サーバーを起動したウィンドウを終了します。

Solaris 8 オペレーティング環境および Red Hat Linux 6.2 環境で PointBase クライアントコンソールを起動するには、次のように入力します。

```
$ sh ffj-install-dir/pointbase/client/console.sh
```

Microsoft Windows システムで PointBase クライアントコンソールを起動するには、「スタート」メニューから、「Forte for Java EE」>「PointBase」>「Client Tools」>「Console」を選択します。クライアントコンソールを停止するには、コンソールを起動したウィンドウを終了します。

上の手順は、ローカルでインストールされている PointBase データベースにのみ適用されます。

Forte for Java IDE に含まれている PointBase ネットワークサーバーの最新情報については、次の Web ページの 『Forte for Java リリースノート』を参照してください。

`http://www.sun.co.jp/forte/ffj/documentation/index.html`

IDE でのその他の JDBC データベースの使用

次の情報は、PointBase データベース以外のデータベースドライバに適用されます。

Forte for Java IDE を起動する前に、データベースドライバファイルを Forte for Java の `lib/ext` ディレクトリに置く必要があります。ドライバがこのディレクトリに置かれていない場合は、新しいスキーマを作成する際に dbschema ウィザードで正しいデータベースを選択することができません。この作業を行う上で、エクスプローラにドライバファイルをマウントしたり、`CLASSPATH` 環境変数にドライバファイルを配置することはできません。ドライバファイルは、`lib/ext` フォルダにコピーする必要があります。

データベースの構成と新しいデータベースドライバの追加について詳細は、次の Web ページを参照してください。
`http://www.sun.com/forte/ffj/resources/articles/configdb.html`

Forte for Java デベロッパーリソースへの登録

Fort for Java デベロッパーリソースに登録すると、次の利点があります。

- アップデートセンターを利用して、自分の環境に適した新しいモジュールとアップデートをダウンロードおよびインストールできます。
- Early Access プログラム (`http://forte.sun.com/eap`) の申し込みを行い、新しい非公開の IDE ビルド、Forte for Java モジュールのプレビュー版、パッチ、およびバグ修正を入手できます。
- 製品の最新情報が入手できます。
- 同じユーザー名とパスワードを使用して、アップデートセンター、Early Access プログラム、および Sun ダウンロードセンター (Forte for Java IDE のダウンロードも可能) にアクセスできます。

Forte for Java デベロッパーリソースに登録するには、`http://forte.sun.com/services/registration/new-user` にアクセスしてください。

すでに Sun ダウンロードセンター、`mysun.sun.com`、または Sun Store に登録している場合、同じユーザー名とパスワードを使用できますが、追加情報を入力する必要があります。アカウント情報を更新するには、 次のページにアクセスしてください。
`http://forte.sun.com/services/registration/accountmaintenance.html`

すでに Forte for Java デベロッパーリソースに登録している場合、自分のアカウントを更新してリリース 3.0 へアップグレードを反映させる必要があります。アカウント情報を更新するには、 次のページにアクセスしてください。
`http://forte.sun.com/services/registration/accountmaintenance.html`

また、IDE のメインウィンドウから、「ヘルプ」>「デベロッパーリソース登録」を選択して更新することもできます。「Register product upgrade」のリンクをクリックしてください。

インストールサブディレクトリの検索

Forte for Java IDE をインストールすると、Forte for Java メインディレクトリの下に、次のサブディレクトリが作成されます。

`/beans` − IDE にインストールされた JavaBeans™ コンポーネントが置かれます。

`/bin` − Forte for Java 起動スクリプトが置かれます (Microsoft Windows では `ide.cfg` ファイルもここに存在します)。

`/docs` − Forte for Java ヘルプファイルとその他のドキュメントが置かれます。

`/javadoc` − Forte for Java IDE で作成された Javadoc™ ドキュメントが置かれます。このディレクトリは、デフォルトで Forte for Java リポジトリにマウントされます。

`/lib` − IDE の主要な実装とオープン API を構成する JAR ファイルが置かれます。

`/modules` − Forte for Java モジュールが JAR ファイルとして置かれます。

`/pointbase` − 2 つのサブディレクトリ、`client` と `network` が置かれます。`client` ディレクトリには、PointBase コンソール、コマンド行ユーティリティ、および PointBase アプリケーションと Web Server アプリケーションの用例集があります。`network` ディレクトリには、PointBase サーバー、サンプルデータベース、用例集、および PointBase ドキュメントが置かれます。

`/sources` − ユーザーアプリケーションとともに再配布可能なライブラリのソースが置かれます。

`/system` − 特殊な目的のために IDE で使用するファイルとディレクトリが置かれます。ユーザー独自の *ffj-user-dir* にある `/system` ディレクトリに移動して、テクニカルサポートが必要な場合に役立つ `ide.log` を取得したり、Forte for Java プロジェクトの情報が含まれている `project.basic` ファイルと `project.last` ファイルを開くことができます。Microsoft Windows の場合、このディレクトリは非表示のファイルシステムとしてマウントされます。

アップデートセンターによるモジュールの更新

Forte for Java, release 3.0 をシステムにインストールすると、アップデートセンターを利用して、新しい IDE モジュールを追加したり、インストール済みの既存の IDE を更新することができます。

注 - 旧バージョンが Early Access リリース (Forte for Java Community Edition EA) である場合、アップデートセンターは利用できません。Early Access リリースからのアップグレードに関する情報は、3 ページの「Early Access リリースからのアップグレード」を参照してください。

アップデートセンターを利用するには、次の手順を実行します。

1. IDE を起動します。
2. IDE の開始画面からアップデートセンターを選択します (または、IDE のメインメニューから「ツール」>「アップデートセンター」を選択します)。
3. Forte for Java アップデートセンターを選択します (NetBeans アップデートセンターではありません)。
4. 必要に応じて、プロキシ構成を設定します。
5. 「次へ」をクリックし、アップデートセンターのログイン名とパスワードを入力します。

   ログイン名とパスワードの登録と作成については、15 ページの「Forte for Java デベロッパーリソースへの登録」を参照してください。

   アップデートセンターは、入手可能なモジュールを表示します。
6. 個々のモジュールを選択するか、「>>」ボタンをクリックしてすべてのモジュールを選択します。「>>」を選択すると、すべてのプラットフォームの Forte TeamWare モジュールを入手できます。「<」ボタンを使用すると、ユーザーのプラットフォームに適していないバージョンを削除できます。
7. 「次へ」をクリックし、アップデートセンターのインストール手順に従います。

   IDE は、選択されたモジュールをインストールし、自動的に再起動します。

8. (オプション) iPlanet Web Server 6.0 プラグインモジュールを有効にします。

   iPlanet Web Server 6.0 プラグインモジュールを選択した場合、要求があれば iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 インストールディレクトリを入力します。iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 をインストールしていない場合、「取消し」をクリックします。モジュールをインストールし、この手順が完了するまで待機します。

   iPlanet Web Server, Enterprise Edition 6.0 のインストールについては、5 ページの「Web サーバーの選択とインストール」を参照してください。

   アップデートセンターの機能と、個人情報に関する Sun のプライバシーポリシーについては、`http://www.sun.com/forte/ffj/resources/sitefaq.html` の「Developer Resources Site FAQ」を参照してください。

Forte for Java IDE (全プラットフォーム) のアンインストール

Solaris 8 および Red Hat Linux v. 6.2 オペレーティング環境において、Forte for Java IDE をアンインストールするには、ディレクトリ *ffj-install-dir* に置かれている `uninstall.class` ファイルを実行します。アンインストーラを実行しないで、単に *ffj-install-dir* ディレクトリを削除した場合、Forte for Java IDE を正しく再インストールできなくなります。*ffj-install-dir* ディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
$ java uninstall
```

「アンインストール」ウィザードの指示に従って、アンインストールプロセスを完了します。

Microsoft Windows では、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」を使用して IDE をアンインストールできます。

第2章

起動コマンド行のスイッチの使用

すべてのプラットフォームの起動スクリプトは、オプションを追加して実行することができます。これらのオプションは、フラグとともに指定します。たとえば、Solaris 8 オペレーティング環境では、次のように入力できます。

```
# runide.sh -help
```

Microsoft Windows システムでは、*ffj-install-dir*\bin\ide.cfg ファイルにオプションを配置できます。IDE は、コマンド行のオプションを解析する前に、このファイルを読み取ります。ide.cfg 内では、オプションを複数行に改行できます。

表 1 は、すべてのプラットフォームに対応する Forte for Java 起動コマンド行スイッチを示します。

表 1　コマンド行のスイッチオプション

スイッチオプション	説明
-h-help	オプションの使い方を表示する。
-jdkhome *jdk-home-dir*	デフォルト以外の JDK を選択する。Microsoft Windows の場合、デフォルトで、IDE はレジストリをチェックし、最新の JDK を選択する。
-hotspot -server -client -classic	使用する JVM 形式を明示的に指定する。
-cp:p *additional-classpath*	指定したクラスパスを IDE のクラスパスに付加する。

表 1　コマンド行のスイッチオプション (続き)

スイッチオプション	説明
`-cp:a` *additional-classpath*	指定したクラスパスを IDE のクラスパスに付加する。
`-ui` *UI_class-name*	特定したクラスを Forte for Java の見た目と使い心地として選択する。
`-fontsize` *size*	IDE のユーザーインタフェースのフォントサイズ (ポイント数) を設定する。
`-locale` *language [:country[:variant]]*	ロケールを指定する。
`-single`	*ffj-user-dir* ディレクトリの代わりに、*ffj-install-dir* から IDE を起動する。シングルユーザーモードで Forte for Java IDE を実行する。デフォルトのモードはマルチユーザー。
`-userdir` *ffj-user-dir*	*ffj-user-dir* ディレクトリ (ユーザー設定の格納場所) を明示的に指定する。このオプションを Solaris または Linux オペレーティング環境で使用しない場合、ユーザー設定の格納場所は、*user-home-dir*`/ffjuser30` となる。このオプションを Microsoft Windows NT で使用しない場合、IDE の初回起動時に *ffj-user-dir* ディレクトリの指定を要求するメッセージが表示される。Microsoft Windows システムでは、ここで指定された値は、レジストリに格納され、その後も使用される。

表 1　コマンド行のスイッチオプション (続き)

スイッチオプション	説明
`-J`*jvm flags*	指定したフラグを JVM に直接的に渡します。
`-J-Xverify:none`	起動を高速化するため、バイトコードの正確性を確認しないように JVM に指示します。クラスがロードされるたびに、JVM はすべてのバイトコードを走査し、メソッドが呼び出されない場合でも無効なバイトシーケンスを検出するため、バイトコード確認プロセスを有効にすると、起動に時間がかかります。また、JVM は、メソッドシグネチャーおよびメソッド本体で参照される特定クラスを (それらのメソッドが呼び出されることがなくても) ロードします。ただし、このフラグを設定すると、Java™ 言語が提供する一部の保護機能を削除できます (詳細は、JVM のマニュアルを参照してください)。
`-J-Xms24m`	JVM の初期ヒープサイズを 24M バイト に設定します。このスイッチを設定すると、JVM が起動時にヒープサイズを拡張できなくなるため、IDE の起動が高速化します。

Solaris および Linux のユーザーは、必要に応じて起動スクリプトを修正できます。

第3章

IDE 内の Java マニュアルへのアクセス

Java 2 SDK マニュアルは、`http://java.sun.com/j2se/1.3/docs.html` から zip ファイル (Microsoft Windows) または tar ファイル (UNIX) 形式でダウンロードできます。

インストールに関するマニュアルは、以下を参照してください。
`http://java.sun.com/j2se/1.3/install-docs.html`

Forte for Java IDE の内部から Java 2 SDK マニュアルにアクセスできるようにする場合は、マニュアルをダウンロード、インストールしてから、ファイルシステムとしてマウントする必要があります (作業手順については、次の節を参照してください)。

「Javadoc」タブからのマニュアルへのアクセス

Forte for Java IDE の「Javadoc」タブからマニュアルにアクセスするには、マニュアルの JAR ファイルまたは zip ファイルを (unzip コマンドまたは JAR コマンドを実行しないで) Javadoc ファイルシステムとしてマウントする必要があります。手順は次の通りです。

1. IDE のエクスプローラウィンドウを開きます。
2. エクスプローラウィンドウの下部にある「Javadoc」タブをクリックします。
3. 「Javadoc」ノードをマウスの右ボタンでクリックし、「ディレクトリを追加」を選択します。
4. マニュアルの JAR ファイルまたは zip ファイルをブラウズし、クリックして選択します。

5. 「マウント」をクリックします。

   Forte for Java IDE が Javadoc 索引ファイルを見つけられない場合、作業を継続するかどうかを確認するダイアログが表示されます。「はい」をクリックして次に進みます。

   これで、「Javadoc」タブからマニュアルにアクセスできるようになります。

   上の手順では、Javadoc 索引ファイルはアーカイブファイルのルート、またはアーカイブファイルのルートの下の `api/` サブディレクトリのいずれかに含まれていると仮定しています。

   JAR ファイルまたは zip ファイルの形式が IDE の Javadoc 機構で使用できない場合、Javadoc ファイルをファイルシステムとして含むディレクトリを IDE にマウントする必要があります。手順は次の通りです。

1. システム内のマニュアルアーカイブファイル (JAR または zip 形式) を取り出します。
2. IDE のエクスプローラウィンドウを開き、エクスプローラウィンドウの下部にある「Javadoc」タブをクリックします。
3. 「Javadoc」ノードをマウスの右ボタンでクリックし、「JAR を追加」を選択します。
4. アーカイブファイルから取り出した Javadoc 索引ファイルを含むディレクトリをブラウズします。
5. マニュアルを含むディレクトリをクリックし、「マウント」をクリックします。

   たとえば、Microsoft Windows システムにおいて、ディレクトリ `d:\project` にある `j2sdk-1_3_1-doc.zip` ファイルを解凍すると、Javadoc 索引ファイルが `d:\projects\docs` ディレクトリ内に抽出されます。IDE 内部から Java 2 SDK マニュアルにアクセスできるように、`d:\project\docs` ディレクトリをマウントする必要があります。